

中小企業支援策

取りまとめ

「戦略的基盤技術高度化・連携支援事業(サポイン事業・サビサポ事業)」(経済産業省所管事業)

「ものづくり・商業・サービス高度連携促進事業」(経済産業省所管事業)

「中小企業・小規模事業者人材対策事業」(経済産業省所管事業)

「地域未来デジタル・人材投資促進事業」(経済産業省所管事業) 等

・中小企業は全国で約 358 万者、全事業者数の 99.7%を占めている。現代的な課題としては生産性・賃金の低迷、経営者の高齢化、中堅企業への成長の遅れなどがある。成長期の中小企業支援策としては補助金その他、融資や税制があるが、これら現行の中小企業支援策が現代的な課題に込えているのか、望ましい組み合わせは何かというのが大きな問題意識として挙げられる。

・今回レビュー対象になっている成長期の支援策について、企業の生産性・賃金の向上や地域経済・サプライチェーンへの波及効果の把握に欠いている。併せて小規模企業が中堅企業への成長、中小企業からの「卒業」が進んでいないボトルネックを把握すべき。

・四類型された中小企業と中小企業への個別・具体的な各種事業(支援策)がつながっていない。ゼロベースで政策体系の整理と見直しが必要ではないか。その上で支援メニューの優先順位付けを行い、選択と集中を図るべきである。支援対象も限定的な個別事業に代えて、規制・ガバナンス改革を通じた包括的な支援があっても良い。

・各事業をみるとアウトカムそのものが設定されていない、あるいは実態を把握しているのか疑問な事業もある。必要なデータがタイムリーに取れていないこともある。また、サポイン事業を含めて非採択企業との比較だけでなく、失敗例についてもアウトカムとして把握すべき。

・中小企業支援策には十分に効果が発現していない、あるいは効果の検証が不十分な事業も見受けられる。事業を継続するとしても対象を適正化して、効果を最大化させる工夫があつて然るべきである。

・アウトカム設定が事業間で一貫していない。中小企業支援策全体で横串を刺せるような指標として、参加企業の生産性向上や経営改善等への各事業の寄与度が把握できるようにすべきである。